平成２９年６月９日

北海道電力株式会社
　泊発電所長　舟根　俊一　殿

泊原子力規制事務所
統括原子力保安検査官　稲垣　隆二

安全文化・組織風土劣化防止に係る取組の総合評価及び要請（指導）について

平成２８年４月１日から平成２９年３月３１日に行われた、泊発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取組要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

１．総合所見

平成２８年度計画に掲げた取組は、従来の継続的な活動に加え、前年度要請事項を踏まえ実施され、また、発電所の品質目標に「世界のエクセレンスとのギャップを踏まえ、より一層の安全を目指す」ことを定め、各課室で改善事項の抽出を開始するなど「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向が見られる」と評価できる。

劣化兆候については、第３者アンケート調査結果から意識がやや低下している傾向が前年度から継続しており、常に問いかける姿勢及び良好なコミュニケーションといった要素においては、「さらに傾向を見るため継続した監視を必要とする」と評価する。取組要請事項を踏まえ、なお一層の安全文化の醸成に努めていただきたい。

２．取組要請事項

発電所員一人一人が、業務の仕組みの構築に当たっては、「常に問いかける姿勢」をもち、組織の上下間、異なる部署間での連携作業が円滑に実施できるよう「良好なコミュニケーション」の更なる充実を図っていただきたい。

３．奨揚がふさわしい取組

ヒューマンエラーを最小限に抑えることを目的に、米国を参考にして、「運転員のためのヒューマン・パフォーマンス・ツール」を作成し、定例試験の現場で本ツールを活用して安全確認のための作業ミーティングを実施していたことは、米国のヒューマンエラーの事例から得られた知見を蓄積、学習し、改善活動に反映させる姿勢の表れと評価できる。

以上